

誰がための行政か

佐渡市議会議長 竹内 道廣



新年、明けましておめでとーうございます。年頭にあたり一言、所信を述べさせていただきます。

佐渡市は何がために、全島一市の合併をしたのか。6年前、人口7万人で合併した。7万人とは都市をつくるための合併である。基本的に都市とは人口減少しない。なぜなら都市とは集中人口が連たん率60%以上を構築することが大原則である。7万人の60%とは集中人口4万2千人が連たんすることによって魅力ある街が形成されることである。

だから若者が地域に残り、子どもを生み育て、老人から子どもまでバランスの良い人口サイクルが都市を形成するのである。さらには産業構成も極めて重要な要素である。一次産業、二次産業、三次産業のバランスが人口維持と都市構成に欠くことのできない要素である。特に若者定住にはその原点である職場の確保が必要不可欠であり、二次産業、企業誘致は絶対的条件である。

ところが合併と同時に環境宣言である。環境宣言都市への企業進出は進出企業も二の足を踏むことは当たり前のことである。結果して7万都市らしきものは全くできない。人口はどんどん減少する。一年に千人ずつ衰退する。何の歯止め策も打てない、打たない。すでに6年経って6千人の減少である。人口減少はとどまる所を知らな

い。30年後には3万人すら切るだろう。人が減るから消費、購買はどんどん減少する。景気はどんどん悪くなる。企業はどんどん倒産する。職場がないから若者はどんどん島外へ出ていく。若者がいないから子どもは減少する。さらに人口は減少する。よって、トキと暮らす静かな限界集落だらけの環境の良い島ができあがる。

私は指摘する。誰もが反対できない。自然、環境、トキ、世界遺産をお題目のごとく唱え、経済活性化策も打てない。企業誘致策も打てない。雇用確保策もない。若者定住策もない。何の施策も打たない、打てない。無策・無能の行政運営と断ずる。何がための合併か、誰がための合併か。

市民は、地方自治制度とは何か知っているのだろうか。市民は、地方自治は二元代表制で成り立っていることを知っているのだろうか。市民は、議会が批判と監視の府であることを知っているのだろうか。市民は、市長は何をなすべき責任があるのか知っているのだろうか。市民は、議員とは何をなすべき責務か知っているのだろうか。市民は、議会とは何をなすべき機関か知っているのだろうか。市民は、佐渡は町村ではなく6万都市だということを知っているのだろうか。

市長を選んだのも市民、議員を選んだのも市民である。市民の厳しい行政監視がいま必要です。

